

# 2015年3月期 第1四半期 決算報告

2014年8月4日  
株式会社 **クレスコ**  
経営企画室

## 1.1. 決算のトピックス

連結

### ▶ 連結経営成績に関する主な事項

- ⊕ 売上高 … 58億10百万円 (前年同期比 14.7%増)
- ⊕ 営業利益 … 3億80百万円 (前年同期比 72.5%増)

ソフトウェア 開発事業	金融・保険分野	前年同期を4億12百万円上回り(22.5%増)、22億46百万円
	公共・サービス分野	前年同期を1億68百万円上回り(15.1%増)、12億90百万円
	流通・その他の分野	前年同期を58百万円下回り(4.4%減)、12億85百万円
組込み型 ソフトウェア 開発事業	通信システム分野	前年同期を1百万円上回り(0.6%増)、2億38百万円
	カーエレクトロニクス分野	前年同期を1億32百万円上回り(73.1%増)、3億14百万円
	情報家電等・その他の分野	前年同期を91百万円上回り(28.0%増)、4億19百万円
商品・製品販売		前年同期を3百万円下回り(18.9%減)、15百万円

### ▶ 連結財政状態に関する主な事項

- ⊕ 総資産 … 145億69百万円 (前期末比 6億20百万円減)
- ⊕ 自己資本比率 … 62.2% (前期末 59.5%)

## 1.2. 振り返り 単体

### 全般傾向

- ❖ **ビジネス向けソフトウェア開発**
  - 全般的に受注が増加、特に金融、公共サービス関連が伸長
  - スマートフォン、タブレットPC関連の案件が増加
  - AWSをベースとした基盤システム構築案件の獲得
- ❖ **組込み型ソフトウェア開発**
  - 国内メーカー向けのカーエレクトロニクス関連の開発量が急増
  - 機能安全ビジネスおよび近距離無線通信関連は案件が増加
  - スマートフォンおよびデジタルテレビ関連開発は案件規模拡大
- ❖ **オリジナル製品・サービス関連**
  - 『モビック』… SAP業務アプリケーションのモバイル化  
6月16日から販売開始、子会社「クレスコ・イー・ソリューション」との協業
  - 『クレーージュ』… AWSをベースとしたクラウドソリューション  
活用事例の横展開とサービスメニューの充実
  - 『インテリジェントフォルダ』… “ワンランク上”のオンラインストレージサービス  
販売代理店の支援とシステムインテグレーションの推進






### 課題

開発要員の確保（社員および協力会社）





新規事業の立ち上げと拡販

品質管理とプロジェクトマネジメント

## 1.3. 振り返り① **子会社**

	クレスコ・ イー・ソリューション	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ ERP (SAP/R3)の導入コンサルティングが伸張</li><li>◆ 既存顧客への営業活動、一括案件の発掘に注力</li><li>◆ 新ソリューション『モビック』の拡販や、人材採用(特に経験者)が課題</li></ul>
	ワイヤステクノロジー	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 受注案件が小規模化するも、外部パートナーとの協業ビジネスをスタート</li><li>◆ Bluetooth Low Energyをベースとした、量産向けスマートウォッチ用モジュール開発</li><li>◆ 販売チャネルの発掘や、開発人材の確保が課題</li></ul>
	クレスコ・アイディー	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 主力のセキュリティロッカーの販売は、受注が不調</li><li>◆ RFID関連の応用製品やICタグの販売は、引き合いは増加するも案件規模小</li><li>◆ 飲食店向け『ハンディライター』の応用製品の開発が課題</li></ul>
	アイオス	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ クレスコグループ内の連携により、営業機会を拡大</li><li>◆ 待機要員の解消や、プロジェクトの採算性向上に注力</li><li>◆ 営業力の強化と協力会社を含む人材の確保が課題</li></ul>
	クレスコ九州	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 新規開拓を含む地場企業の案件掘り起こしを行うも、受注単価は厳しい</li><li>◆ クレスコグループとの営業連携の他、製品販売やニアショア開発で利益確保</li><li>◆ 人材採用(特に経験者)、協力会社の確保が課題</li></ul>

## 1.3. 振り返り② 子会社

	<p>クレスコ北陸</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 独自のITソリューションを武器に、地場企業の深耕に注力</li> <li>◆ クレスコグループでの連携を強化し、クロス営業、ニアショア開発の体制を推進</li> <li>◆ クレスコ・アイディーとの協業で開発した『ハンディライター』の拡販が課題</li> </ul>
	<p>科礼斯軟件(上海)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 中国進出企業の支援ビジネスを事業の柱に、営業活動を実施</li> <li>◆ 上海地場のIT関連企業との開発体制の拡充が不調</li> <li>◆ オフショア案件も含めた案件の獲得と、開発体制の整備が課題</li> </ul>
	<p>シースリー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 信号、車両電気、交通電力等、鉄道関連の制御系システムに強み</li> <li>◆ 情報系の開発案件が堅調に推移、要員の稼働率が安定</li> <li>◆ 交通関連システム、インフラ関連システムの更なる拡充が課題</li> </ul>
	<p>クリエイティブジャパン</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 労働者派遣型の受注形態および単価の見直しに伴い、利益率向上</li> <li>◆ ネットワーク関連の技術力を武器に、クレスコの基盤ビジネスとの連携を強化</li> <li>◆ 経営基盤の強化、人材の採用・育成が課題</li> </ul>

【注】「クリエイティブジャパン」は、2014年7月10日付で増資いたしました。

## 2.1. 損益計算書 [要約]

連結

[単位:百万円未満切捨]

	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	前年 同期比	2015年3月期 中間期予想 <2014/5/7公表>
売上高	5,065	5,810	114.7%	11,650
売上総利益	783 (15.5%)	1,002 (17.3%)	128.0%	— (—)
営業利益	220 (4.4%)	380 (6.5%)	172.5%	700 (6.0%)
経常利益	288 (5.7%)	443 (7.6%)	153.9%	750 (6.4%)
当期純利益	183 (3.6%)	358 (6.2%)	195.3%	460 (3.9%)
EPS 円/株	17.02	33.91	—	43.85

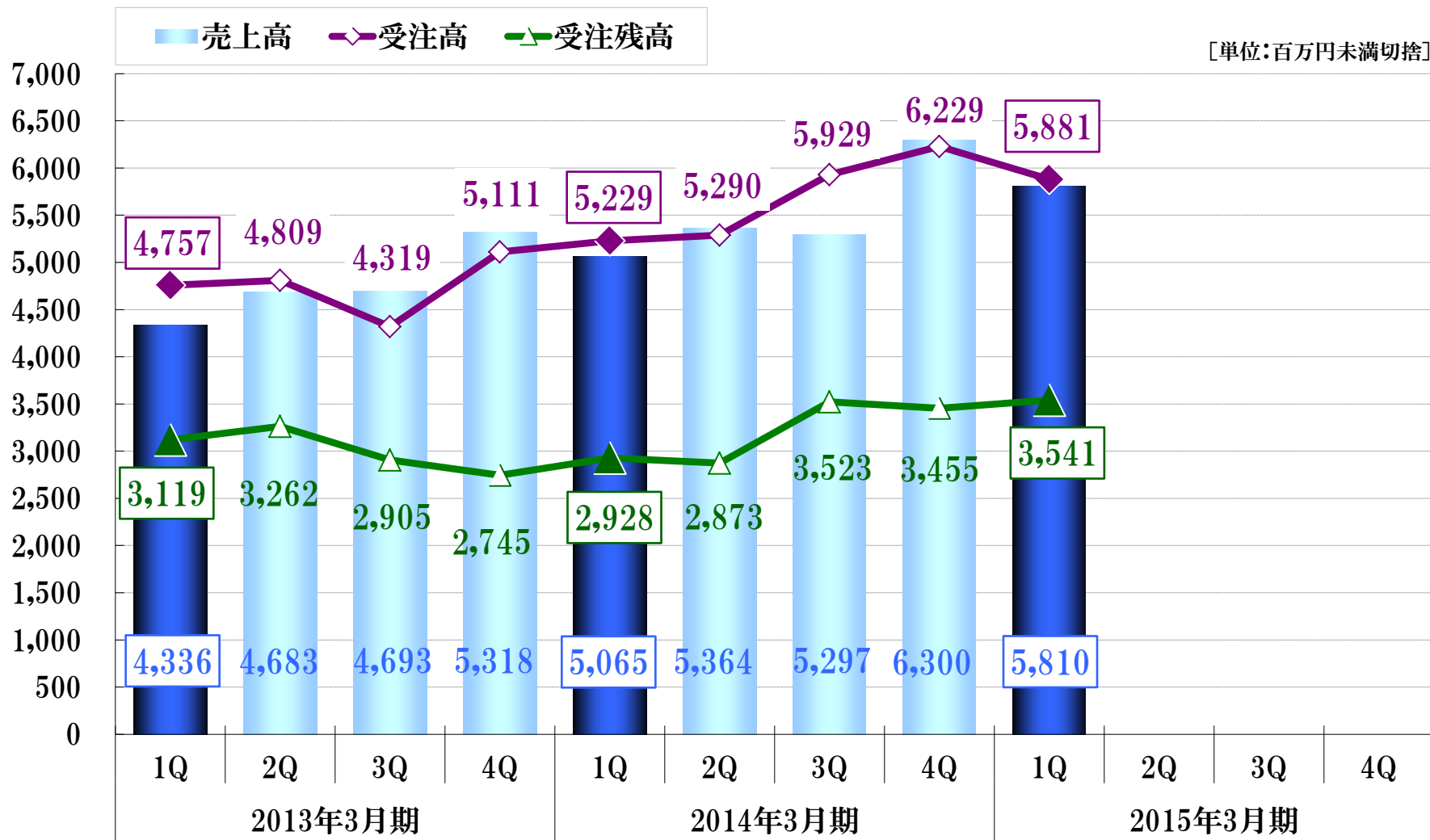
【注】 ( )内の数字は各々の利益率を表します。

## 2.2. セグメント売上高の比較 連結

[単位：百万円未満切捨]

セグメント		2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	増減	増減率
大区分	小区分				
ソフトウェア 開発事業	金融関連	1,834	2,246	412	22.5%
	公共・サービス	1,121	1,290	168	15.1%
	流通・その他	1,344	1,285	▲58	▲4.4%
	計	4,299	4,821	521	12.1%
組込み型 ソフトウェア 開発事業	通信システム	237	238	1	0.6%
	カーエレクトロニクス	181	314	132	73.1%
	その他	327	419	91	28.0%
	計	746	972	225	30.2%
商品・製品販売		19	15	▲3	▲18.9%
全計		5,065	5,810	744	14.7%

## 2.3. 売上高・受注高・受注残高の推移 連結





## 2.4. 損益計算書 [要約]

単体

[単位:百万円未満切捨]




	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	前年 同期比	2015年3月期 中間期予想 <2014/5/7公表>
売上高	3,104	3,745	120.6%	7,200
売上総利益	477 (15.4%)	615 (16.4%)	128.8%	— (—)
営業利益	179 (5.8%)	278 (7.4%)	155.3%	— (—)
経常利益	287 (9.3%)	392 (10.5%)	136.4%	670 (9.3%)
当期純利益	213 (6.9%)	303 (8.1%)	141.7%	450 (6.3%)

【注】 ( )内の数字は各々の利益率を表します。

## 2.5. 損益計算書 [要約] ①

子会社




[単位：百万円未満切捨]

	 クレスコ・イー・ソリューション [資本金：200]		 ワイヤレステクノロジー [資本金：50]		 クレスコ・アイディー [資本金：100]	
	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期
売上高	349	382	8	34	14	7
売上総利益	84	106	▲ 3	11	2	▲ 0
営業利益	18	39	▲ 10	6	▲ 5	▲ 9
経常利益	19	40	▲ 10	6	▲ 5	▲ 9
当期純利益	11	25	▲ 6	4	▲ 5	▲ 9
持分比率	100.0%	100.0%	87.5%	87.5%	100.0%	100.0%

## 2.5. 損益計算書 [要約] ②

子会社




[単位:百万円未満切捨]

	 アイオス [資本金: 313]		 クレスコ九州 [資本金: 50]		 クレスコ北陸 [資本金: 50]	
	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期
売上高	876	876	39	63	130	134
売上総利益	117	119	5	8	25	23
営業利益	33	37	0	▲ 1	7	4
経常利益	37	42	0	▲ 1	7	5
当期純利益	23	32	0	▲ 0	4	3
持分比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## 2.5. 損益計算書 [要約] ③

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 科礼斯軟件(上海) [資本金: 70]		 シーズリー [資本金: 20]		 クリエイティブジャパン [資本金: 100]	
	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期
売上高	8	50	207	216	336	378
売上総利益	▲ 1	3	34	37	42	78
営業利益	▲ 6	▲ 6	11	16	16	30
経常利益	▲ 9	▲ 7	14	17	16	30
当期純利益	▲ 9	▲ 7	9	17	11	18
持分比率	100.0%	100.0%	70.0%	70.0%	100.0%	100.0%

【注】「クリエイティブジャパン」は、2014年7月10日付で増資いたしました。

## 3.1. 基本方針

# 次世代クレスコの推進と収益力向上 信頼と成長

私たちは  
「メインITソリューション・パートナーを目指す」こと、  
「ワンストップ・ソリューションを提供する」ことの2つをビジョンとして掲げ、  
グループ企業と一丸となり、将来に向けて精進してまいります。

2014年度は、次世代クレスコの仕上げに入る段階であり、計画の実行とレビューを通して、更なる収益性の改善と企業価値の増大に向け、重点施策の具現化を推進してまいります。

- ▶ 業績の飛躍に必要な投資(製品/サービス関連イベント開催、人材採用、社員教育、先端技術研究等)は積極的に行ってまいります。
- ▶ コーポレートガバナンス強化とコンプライアンス経営の徹底を実施し、主体的にその社会的責任を果たしてまいります。

## 3.2. 重点施策

- ▶ 「技術と品質のクレスコ」の推進と技術研究所の強化  
企業グループ全体の「品質マネジメント力」の向上と先端技術を活用したビジネスの実現
- ▶ 組込み関連事業の再構築と新ビジネスモデル創出  
近距離無線関連のソリューション開発および機能安全関連の事業領域拡大
- ▶ グループ連携強化による収益性の改善と企業価値の増大  
協業による新規ソリューションの開発、クロス営業の強化、高度スキル人材の育成
- ▶ ニアショア開発、オフショア開発の推進  
地方分散開発体制強化と海外開発体制（中国、ベトナム）の整備
- ▶ クラウド関連ソリューションの展開  
第3のプラットフォームを取り込んだソリューション提案の実行

## 3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など①

### 1 経営環境

当第1四半期連結累計期間(2014年4月1日~6月30日)の経営環境は、消費税率が引き上げられた4月以降、駆け込み需要の反動がみられましたが、景況感が高水準を維持し、向こう2~3ヵ月先には改善が見込まれております。このような経営環境を背景に、企業のICT投資は、受注ソフトウェアやシステムインテグレーション、ソフトウェアプロダクトをはじめ、概ね増加傾向となっており、第3のプラットフォームといわれる「クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術」をベースとしたニーズが増加してまいりました。

### 2 今後の見通し

2014年度の国内企業のICT投資は、安倍政権による新成長戦略や企業業績の好転により、更に活性化すると考えております。また、日銀短観をみると、企業規模に濃淡はあるものの、2014年度のソフトウェア投資額は、増加傾向にあり、クラウドやモバイル端末(スマートフォンやタブレットPC等)を利活用したシステムへの移行、ICTシステム基盤の統合・再構築、ビッグデータの分析と活用、ソーシャル・テクノロジーのビジネス活用など、第3のプラットフォームといわれる「クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術」に関連する市場の成長が見込まれます。

## 3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など②

### 3 今後の事業展開

2014年度のICT投資分野は、顧客情報・営業支援、生産・在庫管理、販売管理、経営情報・管理会計といった、本業に直結する基幹系システムや情報系システムの需要が増加すると予測しております。当社企業グループは、システムインテグレーションを含む受注ソフトウェア開発を事業の柱とし、各種サービス・ソリューションやITコンサルティングを提供しております。「クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術」といった開発トレンドをしっかりと取り込み、多様化する顧客ニーズにスピーディな対応をまいります。また、当社企業グループ各社が長年培ってまいりました技術と経験を活かして、顧客の環境変化をいち早く捉え、顧客のビジネスチャンスを支援する新規性と利便性を備えたサービスを開発するとともに、他社との共同研究やアライアンスビジネスも含めた事業を展開してまいります。

### 4 株主還元方針

株主還元方針といたしましては、何よりも業績に裏付けられた適正な利益配当に重点をおいており、特段の株主優待は行っておりません。なお、配当に関しましては、当社の経常利益を基に特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。



- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業績や結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【IRのお問合せ】 経営企画室

Mail : [ir@cresco.co.jp](mailto:ir@cresco.co.jp)

TEL : 03-5769-8058